



**T S U N A G U**

**小から中への滑らかな接続にむけて**

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年10月22日

我孫子市小中一貫教育だより  
第341号



我孫子市マスコットキャラクター  
「手洗のうなぎさん」

### 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

## Abi-小中一貫教育 共有授業実践の様子を紹介するうな～！

### Abi-キャリア 「つながる 広がる 支え合う ～高齢者疑似体験をしよう～」

並木小学校のある久寺家中学校区では、研究指定を受け福祉教育に取り組んでいます。その一環として5年生が「高齢者についての理解と共生」をねらいとした出前授業を実施しました。当日は、我孫子北地区社協の皆さんの支援を受け、身体機能の低下、視覚機能の低下、感覚機能の低下による困難さを体験しました。



身体機能の低下による困難さの体験では、重りやヘッドホン、真っすぐに立てないようにするベルトなどの装具を付け、歩行をしました。子ども達からは、「腰が痛い」「重くて歩きにくい」「何も聞こえなくて怖い」「杖があると助かる」「他の人に支えてもらおうと助かる」等の声が聞かれました。

色によって見え方が異なることや手先を自由に使えないもどかしさなども体験し、高齢者の方との接し方について考えを深めるきっかけとなりました。社会福祉協議会の方からは「まずは身近で困っている人たちに優しく手を差し伸べてあげてほしい」と話がありました。

この貴重な体験と学びを中学校での福祉教育カリキュラムにしっかりと繋ぎ、中学校区としての「育てたい子ども像」を実現させるべく取り組んでいくことを期待しています。

### Abi-ふるさと「岡田武松」

我孫子第三小学校6年生の理科の学習で、Abi-ふるさと「我孫子の先人」の授業が行われました。岡田武松博士の業績について学び、防災・減災の観点で自分ができることを考えることが目標です。

「天気予報がない時代はどのように天気を予想していたのだろう」という先生の問いかけから授業が始まりました。台風の命名者である岡田武松博士は、日露戦争のさなか日本海海戦があった日の天気予報を的中させ、これを機に日本が勝利して戦争が終結に向かったことや人材育成の名人であったことを知りました。また、当時の気象情報は軍事機密事項でしたが、気象事業の本質を守ろうと気象事業の独立を守り抜いた武松の思いも想像しました。



その後、天気予報をどのように活かすべきかについて考えました。「事前の準備や備え」「危険個所の修理」「責任をもって自分の命は自分で守る」「情報を知らない人に呼びかける」など、自助・共助に係る意見が多く出され、防災に関する既習事項がしっかりと生きていることを感じました。

今後もカリキュラムに本時のような授業を組み入れ、我孫子中学校区のオリジナルテーマである防災教育を通して小中学校が繋がっていくことが想像できる授業でした。